

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200365
法人名	社会福祉法人 美野里会
事業所名	グループホーム輝陽園
所在地	千葉県柏市酒井根69-1
自己評価作成日	平成30年2月5日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は静かな住宅地内に建ち、施設の敷地は3000㎡以上あります。敷地内には木々が多くあり花壇や畑もご利用者の皆様と整備しています。雨天以外ほぼ毎日施設内外を散歩し、風景をみながら季節の移り変わりを感じられます。庭も広く自由に使えるスペースがあり、春は花見、夏は花火大会や流しそうめん、秋には炭火でさんまを焼いたり焼き芋を楽しまれています。建物は鉄筋コンクリート構造で、スプリンクラー、自動通報システム、消火栓、消火器等を完備しており災害に強い構造になっております。敷地内に同法人が運営している多くの介護サービス事業所があり、介護状況の変化の対応や相談等、いつでもお受けしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム輝陽園」は、デイサービス・小規模多機能施設・ショートステイ・ケアハウス・地域密着型特別養護老人ホーム等が併設した複合施設である。施設は地域住民として地域活動に参加すると共に、施設行事開催時に地域住民や家族を招待する等、良好な関係作りにも努めている。また、施設内に施設交流スペースを設けており、地域の人が個々の目的に応じて利用する事が可能となっており、地域貢献及び認知症ケアの啓発に繋げている。献立作成及び食材の買い出しは、入居者の希望を取り入れながら行っており、食への興味を引き出せるよう工夫をしている。また、施設内の畑から収穫された野菜の活用や流しそうめん・バイキング形式の食事提供等、食事が日常生活の活性化に繋がるよう支援しており、入居者からは好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりと話をすることの大切さを、管理者やユニットリーダーが会議だけでなく日々の業務の中でも職員に説明を行っている。	「利用者一人一人に寄り添い、話をきくこと」「地域の中での生活を支援していくこと」を理念に掲げ、事業所内に掲示すると共に、新人研修や全体会議等において議題として取りあげる等、職員への周知を図っている。また、日々の業務の中でも都度触れており、理念に基づく施設サービスの実践に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に町会の行事に参加している。夏祭りでは利用者が参加するだけでなく、職員が模擬店の手伝い等でも参加している。机やイスを町会行事にお貸しするだけでなく、地域交流スペースも地域のサークル活動等で使用していただいている。	地域行事参加や小学校の行事見学等、地域との交流を積極的に行っている。また、施設行事に地域住民・家族を招待する等、施設の理解促進にも努めている。その他、施設内に地域交流センターを設置しており、地域の人々が気軽に施設を利用する事が可能となっており、地域住民と触れ合う機会が多く、入居者の生活活性化に繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の現場研修や、包括支援センターの認知症に関する研修等で地域スペースを活用していただいたり、現場見学や職員の研修への協力もしている。地域の方の介護に関する相談も随時行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、生活状況だけでなく、事故報告や実施研修、施設の現状等を説明している。また、参加者全員に必ず意見をいただき、改善すべき事項はすぐに対応をしている。	運営推進会議を年6回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・小学校校長等が出席している。会議では、施設活動報告や質疑応答を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回包括支援センターの職員に出席をお願いし、すべてに出席をいただいた。また、包括支援センターの活動にも積極的に協力し、場所や人の提供を行っている。	日頃から市に対して、報告や相談を随時行っており、適切な連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会に参加しており、会議を通じて市職員及び他事業所と意見・情報交換の機会を設けている。		

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人すべての事業所で身体拘束を行わないことを理念としている。毎年、新年度には理事長を中心に身体拘束に関して研修会を開催している。	身体拘束排除・高齢者虐待防止・権利擁護等の外部研修に参加しており、全職員が適切な支援方法を身につけている。また、施設の玄関は施錠せず、声掛けや見守りを行う等、安全確保の徹底を心掛け、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で何人か身体拘束に関する外部研修に毎年参加しており、その資料等をだれでも確認することができる体制になっている。また、新人研修等で虐待について代表者が説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の各部署で後見人制度を利用されている方が多くおり、法人内で情報交換を行っている。また、後見人制度について説明されている文書が回覧できる状態であり、各職員がいつでも確認できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時には管理者と改革作成担当者が立ち合い、契約内容だけでなく重要事項や施設の方針等も説明し家族からの質問等にも細かく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時の家族へのアンケートの集計や、運営推進会議での家族の意見は毎回記録をし、GH玄関前に常に表示してある。また、意見箱も設置しており、より多くの意見がきけるよう配慮している。	家族の来訪時・電話連絡・運営推進会議等を活用し、家族からの意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望においては、会議・申し送り等で周知・検討し、適切な改善に努めると共に、経過や結果については随時公表する等、運営に反映させる仕組みが確立している。他にも、法人が季刊誌「みのり」を発行しており、施設イベント時の写真の掲載や会計報告の開示を行う等、家族への情報発信及び施設運営の透明化を図っている。	

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議を開催し、その中でリーダーから職員の意見としての提案を受けている。また必要時には臨時に全体会議を開き、多くの職員の意見を直接聞き対応している。	定期的に職員会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。希望休の採用・有休休暇の消化にも積極的に取り組んでおり、働きやすい就労環境の整備にも努めている。また、希望に応じた人事異動も行われており、意向を重視しながら人事配置の配慮・工夫も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年年度末に代表者が管理者が職員一人一人と面接をしている。パート職員にも労働時間や条件等をききながらできる限り対応をしている。資格を得ようとしている職員には勤務日の調整や相談等をその都度行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は職員が自由に確認することができ、希望するものがあれば参加できる体制ができている。また、法人内でも定期的に研修を行い、勤務時間内に多くの職員が参加できるように工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの集まりや交流会には積極的に参加している。他施設からの見学も受けており、見学後には職員間の交流も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に必ずご本人を含め、家族と数回面談を行っている。ご本人とも話をきくことで早く顔なじみの関係ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは利用申込み時から契約まで面談を数回行っている。その中で現状で困っていることや要望をきいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の面談時に、サービスの内容を丁寧に説明している。必要時にはグループホーム以外のサービスも説明し、紹介も行っている。		

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や得意な事、残存機能を考慮しながら日々の生活の中でできることをお手伝いいただいている。また、歌や貼り絵などの活動を通して他者との交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状態の変化があった時等、すぐに家族に連絡をし状況説明をしながら常に相談をしている。家族が来園した時も必ず近況報告を行い、一緒に相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時に面会時間に制限がなく、ご本人や家族の希望によりどなたも何時でも面会できることを説明している。また、自宅への一時帰宅も送迎など協力をしている。	友人・知人・家族の来訪は自由に行われており、面会時間の制限も設けず、気軽に施設に来訪できるよう、配慮している。外出・外泊も自由となっており、馴染みの関係継続を支援している。また、少人数・個別対応を実施し、馴染みの場所での楽しみを支援している。他にも、同法人の施設利用者との交流が、馴染み関係継続や新たな馴染み関係に繋がる機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内では歌や貼り絵などの活動で他者と交流を図ったり、洗濯たたみや食事の準備などの日常生活のなかでも交流を保っている。また、施設内の他事業所との合流デイサービスを定期的に開催し、多くの人との交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に退去後の支援について説明するとともに、退所後にも介護に関する相談を受けていることも説明している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で生活歴や趣味・特技を知る努力をしている。会話が困難な方も家族からの情報や以前に利用していたサービスからの情報をもとに趣向をしる努力をしている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等の確認を行うと共に、医療機関や他事業所からも情報収集し、より詳細な情報の把握に努めている。入居後はコミュニケーションを図りながら意向・ニーズの確認に努め、職員間で意見・情報交換を行い、本人本位のサービスの実現及び情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前に数回面談を行い、本人や家族から情報を得ている。また、本人や家族の了解を得ながら利用されていたサービス事業者からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助の中で気づいたことや、一緒に話をする事で一人ひとりの心身状態を確認している。また、支援経過等で各職員から多くの情報を集め、利用者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人や家族の希望、カンファレンスの内容、各チェック表、介護職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。	本人・家族の意向を基に、会議において職員間で検討しながら介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、普段と変わったことや気づいたことがあれば支援経過や情報連絡ノートに記録し、全職員で共通の情報とするとともに経過状況を家族に伝え意見をもらいながら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を聞きながら、専門医療や市内介護サービスの紹介を行っている。また、必要時には同法人の運営する介護サービス事業所で相談を受けることもできる。		

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散歩を常時行うことで、近隣の住民と顔なじみの関係ができています。地域の催しにも作品展示等を行うことで、それを目標にして作品づくりをし、リハビリや精神的な達成感を得ることができます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は十分説明したうえで、本人や家族の選択を尊重している。必要時には専門医療機関の紹介や往診もお願いしている。また、緊急時には適切に対応できるよう数力所の病院と協力関係を築いている。	希望の掛かりつけ医への受診や内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、緊急時・急変時に備えて、協力医療機関と連携を図りながら、適切かつ迅速な対応ができるよう体制を整えている。その他、訪問リハビリを利用する等、入居者一人ひとりの身体状況に応じた医療支援も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が委嘱している主治医や協力病院とは24時間オンコールが可能となっていていつでも相談できる。また、法人内の看護師にも随時相談できる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活様子を細かく報告するとともに、面会も多く行いご本人の状況確認と病院関係者から現状報告を受ける努力をしている。退院時にはサマリーの説明をうけ、今後の生活での注意事項も確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にその段階での終末期に対する家族や本人の希望を聞いている。また、変更は都度可能であることも説明している。主治医の往診や訪問看護の利用ができる体制であることを含め、施設でできることの説明を行っている。	契約時に重度化・終末期についての本人や家族からの意向確認を行っている。また、重度化・終末期における施設方針も説明し、同意も得ている。必要時・希望時には家族・医療機関等と意向を確認しながら、ケアの統一を図っている。医療機関や他施設への切り替えが必要となった場合は、法人内の各機関との連携体制を活かしながら、情報交換を行い、円滑に移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員に配布している。また、法人内の看護師による研修も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間、1回は地震を想定して行っている。その後の研修として地元の消防署や消防団の協力を得ながら行っている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置すると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を実施している。消防避難訓練では、消防署立会い訓練・地震想定訓練等を施設合同で実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護について毎年全職員を対象に研修を行っている。また、ユニット会議の中でも言葉使い等について話し合っている。	新人研修の実施や権利擁護を含めた外部研修への参加等を通じて、職員へ意義の周知を図っている。同姓介助を基本とし、入居者のプライバシーの配慮に努めると共に、会議等で接遇面の確認や検討を行う等、適切な支援の実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好き嫌いや飲物の種類をはじめ、入浴時間や就寝時間等、日常生活全般に本人の希望をを伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や物づくり等、会話の中で本人の希望を探り援助している。皆で話をする事で、多くの人と一緒に行動できることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の衣類は本人の希望を聞きながら準備している。誕生会や行事参加の外出時にはお化粧をしたり衣類を選んだりとおしゃれを楽しむ援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1週間単位で利用者に希望を聞きながら作成している。野菜の下ごしらえ等、できる範囲で食事づくりをお願いしている。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立作成及び食材の買い出しは、入居者の希望を取り入れながら行っており、食に対する興味を引き出せるよう工夫をしている。また、定期的に外食や行事食の提供を行う等、食に対する楽しみを支援している。その他、施設内の畑から収穫された野菜の活用や流しうめん・バイキング形式の食事提供等、季節感を取り入れながら、食事が生活活性化に繋がるよう、様々な工夫を凝らしており、入居者からは好評を得ている。	

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病や本人の状態に合わせ、必要時には食事・水分チェック表を作成し、細かく摂取量を確認している。摂取状況に応じて高カロリー食品の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや直接介助で口腔ケアを行っている。必要時には、本人や家族の了解を得て歯科医師の訪問診療や歯科衛生士に相談を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表を作成し、個人の排泄リズムを把握する努力をしている。チェック表を確認して声掛けやトイレへの誘導を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間においては、ポータブルトイレの設置・トイレ誘導等にて、適切な支援を行っている。また、乳製品の活用・食事の工夫・運動の実施等、日常の暮らしの中に継続的に取入れながら、自然排便に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。ヨーグルトや乳酸菌の飲物やオリゴ糖も毎日提供し、便秘気味の利用者には水分や運動の大切さを説明し一緒に体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時に入浴は夜間帯を除き、毎日いつでもできることを説明している。毎日入浴の希望をきき、希望される方は時間も伺っている。	入居者の体調や希望に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保すると共に、清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。必要に応じて、併設施設の特殊浴槽の使用が可能となっており、身体状況に合わせた入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の途中でも休息できるように、声掛けをソファ等で行って休んでもらっている。夜間、就寝時間もそれぞれのリズムを大切にし、その都度就寝介助を行っている。		

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援経過の中で、受診結果薬が変更になった場合には受診内容と薬の効能や副作用の注意を記録し全職員の情報としている。また、薬の説明書はすぐに確認できる状態となっており、必要時には薬剤師に連絡がとれる体制である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや掃除の手伝い等、本人の意思を確認しながら行っている。また、できる方には畑仕事も一緒に行い、収穫時には皆で楽しめるよう援助をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物はほぼ毎日行っている。地域の行事にも積極的に参加し、車の乗降や誘導等に地域の人の協力を得られている。	日頃から散歩・買物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。散歩コースは四季を感じられる自然環境が整備されており、入居者の楽しみとなっている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、家族やボランティア等の参加もあり、外出が楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に本人や家族の希望を聞いて、金銭を自己管理することもできる。自己管理でない方にも施設で立替金としてお渡しすることで、買物などを楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の取次ぎは常時行っている。携帯電話をお持ちの方もおり、操作方法に援助が必要な場合には介助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節ごとの貼り絵や飾りつけをして、季節の移り変わりを楽しんでもらうとともに、細目に清掃を行い特に匂い等で不愉快な思いしないよう努力している。	施設内は季節飾りや作品が掲示されており、入居者が季節を感じながら居心地良く生活できるような工夫がされている。また、共有スペースに、ソファ・椅子等を設置し、自由にくつろげるよう配慮している。加湿器や空気清浄機を設置しており、感染症防止に努めている。その他にも、ベランダを活用し、薔薇等を植えたプランターが置かれており、入居者の楽しみとなっている。	

【千葉県】グループホーム輝陽園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、いつでも他者と交流がとれるように工夫している。食事席はいつでも使用できるように配置を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重量や大きさ、火の使用以外のものを自由に搬入することができる。本人や家族の意思でカーペットを敷いたりカーテンを変えることもできることを説明している。	希望に応じて、馴染みの品を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、カーペットの使用や布団を敷く等、入居者一人ひとりの生活歴や好みのスタイルに応じた居室となっている。各居室に洗面台が設置され、利便性に優れた設計となっている。他にも、鍵・収納も確保されており、プライバシーの確保もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全域がバリアフリーとなっており、廊下やトイレ、浴室内すべて手すりが完備されている。車いすでも自走できるよう廊下は広く、居室の扉も軽く開けることができる。		